

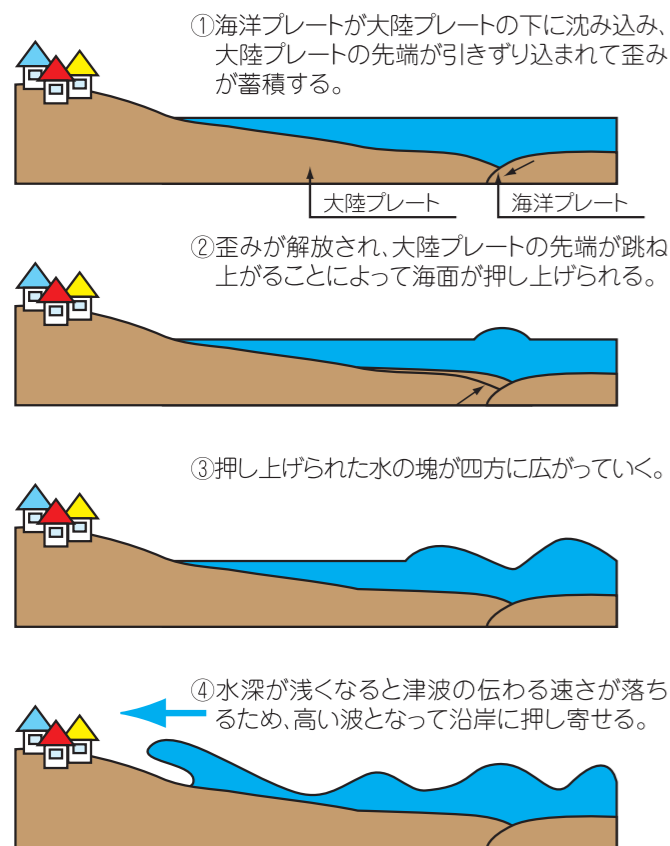
津波

海岸や河川には近づかず逃げるのが一番!

津波が発生するしくみ

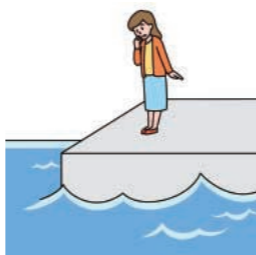
津波は、海底で発生する地震によって海底の地形が急に変わり、海水が大きく押し上げられたり、沈み込んだりするため起こります。

発生した海面の動き(上下動)が特に大規模なものであれば、水面が広範囲に盛り上がり、巨大な水の塊となって沿岸に押し寄せます。



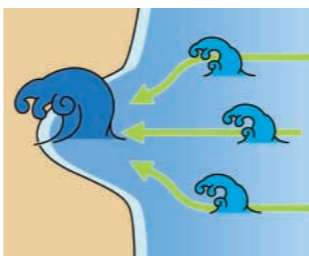
引き潮がなくても津波は襲ってくる!

津波の前には引き潮が起こるといいますが、地震の起こり方によっては、引き潮があるとは限りません。



津波の高さは海岸の地形などで大きく変化する!

特に、湾や河川沿いなどは高くなりやすく大変危険です。



津波が見えてからでは逃げ切れない!

海岸近くでは時速約36kmとなり、普通の人々が走っても逃げ切れるものではありません。



津波避難の心構え

小さな揺れだったり揺れを感じたりしなくても、大きな津波に襲われることがあります。津波警報・注意報が発令されたら速やかに避難し、解除されるまでは海岸に近づかないで下さい。

●地震が起きたら、まず避難!

強い地震、また弱い地震でも長い時間ゆっくりとした揺れの場合は、直ちに安全な場所へ避難!

●揺れがなくても襲ってくる!

地震を感じなくても、津波警報・津波注意報が出されたら直ちに避難!

●情報を待っているのは、逃げ遅れる!

テレビ・ラジオなどの情報を待っていると避難に間に合わないことがあるので、まず安全なところに避難してから情報確認するよう心がけましょう。

●高さ50cmでも危険!

水中では歩行速度が低下するため、少しの浸水でも避難の妨げになってしまいます。また、津波は勢いのある水が押し寄せてくるため、高さ50cmでも足元をすくわれてしまい、歩行困難となります。

津波マップについて

今回作成した津波マップは、青森県太平洋沿岸に最大クラスの津波をもたらすと想定される「H24青森県太平洋側想定地震津波」を元に、浸水地域を色分けした物です。

みなさんの住んでいる地域の避難所と避難経路を把握し、津波からの避難対策に役立てましょう。

浸水深の考え方

浸水深(メートル)	浸水深の考え方
20メートル以上	6階建て以上の建物が水没する可能性がある
10メートル以上20メートル未満	3階建ての建物(或いは3階部分まで)が完全に水没する
5メートル以上10メートル未満	2階建ての建物(或いは2階部分まで)が水没する
2メートル以上5メートル未満	木造家屋のほとんどが全壊する
1メートル以上2.0メートル未満	津波に巻き込まれた場合、ほとんどの人が亡くなる
0.3メートル以上1.0メートル未満	避難行動がとれなく(動くことができなく)なる
0.3メートル未満	

津波警報について

マグニチュード8を超える巨大地震の場合、予想される津波の高さを、「巨大」、「高い」という言葉で発表します。

その後、正確な自身の規模がわかった場合、予想される津波の高さを、1m、3m、5m、10m、10m超の五段階で発表します。

警報・注意報の種類	巨大地震の場合の発表	発表される津波の高さ	解説
大津波警報	巨大	10m超(10m以上の場合) 10m(5m~10mの場合) 5m(3m~5mの場合)	ただちに高台に避難しましょう。津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないようにしましょう。
津波警報	高い	3m	
津波注意報	表記しない	1m	ただちに海岸から離れましょう。注意報が解除されるまで海岸に近づかないようにしましょう。

予想される津波の高さは、各区分の高い方の値を発表します。

3m~5mの津波が予想された場合は、「大津波警報を発表し、「予想される津波の高さは5mと発表します。

津波警報、津波注意報が解除されるまでは海岸に近づかない!

津波警報・津波注意報が発表されたら、海水浴や磯釣りは中止して、すぐに避難して下さい。津波は短時間で襲ってくる場合もあります。

また、繰り返し来襲し、第1波よりも第2波、第3波の方が高くなることもあります。

